

令和元年度 幼児教育講座（第2回）報告

8月1日（木）、男女共同参画センター（あざれあ）で第2回幼児教育講座が行われました。

講師に日本相談支援専門員協会顧問の福岡寿先生をお迎えし、「幼から小へ～連続性のある支援のあり方～」をテーマにお話を伺いました。

長野県中野市における訪問体制の確立の過程とチーム支援の具体について、映像も交え、熱く語っていただきました。参加された先生方からは「今回も先生の話に引き込まれてしまい、あっという間に時間が過ぎてしまいました。」「福岡先生のお話を聞く機会があればぜひ参加したいです。」などの感想も聞かれ、大変好評でした。



参加者のアンケートから

- ・ 福岡先生のお話は実体験からの生きた言葉で、とても分かりやすく楽しく聞かせていただきました。幼稚園でも集団の中で保育していくお子さんがいます。その事実を伝える難しさを感じています。一人一人が過ごしやすい環境を作っていくとともに、保護者に「お子さんは苦手な部分もこのようにするとこんなよい表れがあった」と伝え、気付いてもらうチャンスを持つよう心がけていきたいと思います。（公立幼稚園 教諭）
- ・ 福祉と教育の連携に私立幼稚園は立場の違いを感じています。中野市のような取り組みがもっと身近にあり連携できることを望みます。多職場連携を園発信で作っていきけるよう働きかけていきたいと思います。（私立幼稚園 教頭）
- ・ 2年前まで行政の中で発達障害を中心に検診に出向いたり巡回相談をしたり親子教室を開催したりしていましたので、先生の話されたことがとてもよく理解できました。うなずけることがたくさんありました。（公立保育所 保育士）
- ・ 第1回のお話を思い返しながら今回の講義を聞きました。特性を大事にし、不安に思っているところにどれだけ寄り添えるか、クラス運営や園の支援体制について見直していきたいと思います。（公立こども園 保育教諭）
- ・ 地域のセンター的役割についてもっと視野を広げて考える必要があり、市にとって何が欠けているのか、何が必要なのか見直していきたい。本市にも特別支援の窓口があるが、関係機関との連携はまだ不足していると感じる。すぐにはできないが、支援の理解をさらに周囲へとより広げていけるよう努力していきたい。（行政関係者）